

日 時 平成29年12月15日（金）13：30～16：20

## 審議事項

### (1) 国立大学法人琉球大学における学則等規則体系の見直しについて

福治理事から、国立大学法人琉球大学における学則等規則体系の見直しについて、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

また、事前に委員から意見のあった役割が重複するような会議等の整理については今後検討していく旨、説明があった。

### (2) 給与法及び退職手当法の改正に伴う対応について

福治理事から、人事院勧告等に伴う、本学の職員給与規程並びに職員退職手当規程等の改正について、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

### (3) 平成29年度支出予算の執行について（案）

福治理事から、平成29年度支出予算の執行について、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

なお、委員から質問のあった人件費増加分（人事院勧告対応）に係る病院の対応及び病院全体の今年度予算の見通しについては、後日関係資料を送付する旨、説明があった。

### (4) 平成30年度予算編成方針案について

福治理事から、平成30年度予算編成方針案について、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

なお、委員から質問のあった国立大学の授業料無償化に係る影響額の考慮については、今後の措置が明らかになった時点で対応を検討していく旨、説明があった。

### (5) 千原学生寮改修及び新営に係る長期借入金の認可申請（案）について

福治理事から、千原学生寮改修及び新営に係る長期借入金の認可申請（案）について、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

## 懇談事項

### (1) 琉球大学の今後のあり方について ～ガバナンスのあり方について～

大城学長から、「琉球大学の今後のあり方について～ガバナンスのあり方について～」について、前回の本協議会における懇談事項での議論を踏まえつつ、今回も継続して懇談を行いたい旨発言があり、資料に基づき概要や本学における取組等の説明を行った。

引き続き、意見交換を行ったところ、委員から以下のような発言があった。

また、学長から次回の本協議会においても「琉球大学の今後のあり方について」のメインテーマの下でさらに議論を深めていきたい旨、発言があった。

○18歳人口が減る一方、全国の大学は増加している。国が財政難の中、琉球大学はどのように経営していくのか。IoTやAIなどの技術革新による変革に、琉球大学はどう対応するのか。沖縄の地域特性（他府県と違い人口増で経済も良好）をどう考慮し、琉球大学が沖縄のために、どのような人材を輩出し、またどのように貢献できるのか。これらのことを共通に認識しておかなければならない。

○学生寮の入居率改善のためにクーラーを導入するとか、駐車場を有料化する等、民間企業ならすぐに考えそうなことがあまり検討されていないことに、感覚の違いを感じる。違う使命を持っている民間企業と連携し、新しい価値を生み出していくことが今必要なのではないか。

○コーポレートガバナンスと大学のガバナンスは、大きく違いはないと考える。大学の教職員（知的労働者）が現状と課題に関する認識をいかに共有するか、「知的

労働者の生産性の向上」をどう実現するかが大事である。例えば、授業科目がどのような教育上の効果があるかなどについて定量的な評価指標できちんと現状を把握する。琉球大学がどういう方向に進むのか明確になれば、教員の選考などにおいても、基準となるのではないか。

○産学連携も大事だが、大学と企業が一体的に新しい価値を生み出すような方向にある。全教員を同じ方向に向かわせるのは難しいので、先鋭的なモデルを示して、全体を引っ張る方が良いと思う。海外の若い起業家や新しい企業との連携・協力等を積極的に行ってほしい。

○メガバンクがマイナス金利の中、2万人の人員削減も検討している。またAmazonは、早く失敗してPDCAを素早く回転させる「回復力」を重視しており、このような企業が今世界を席卷している。これらの例をみると、大学も危機感を持ち、教育を変えていかなければならない。求める人材も変わっていくので、早い対応が求められる。それをリードするのは学長であるが、学長以外の教職員も皆リーダーシップを持てば変わっていくと思う。

○中小企業では、琉球大学の学生が欲しいが、お金をかけて大きな会場を借りて企業説明会を開いても、琉大生はなかなか来てくれない。今後は、参加してくれた学生をどのように社員として採用し、育成していくかが重要。中小企業にインターンシップとして来てもらい、学生側から中小企業におけるIT化で改善が必要な点を見てもらおう等、中小企業のニーズと学生のマッチングができるインターンシップにできないかと考えている。

○琉球大学をどう発展させたいかという方向に沿った評価基準をつくって活動するようにした方が良い。定量的な評価基準を作っていただき、それに向けて大学活動や教育活動を評価していただきたい。

○真の大学の強みは「定量化できない暗黙知」であり、それを提案し、探り出し、社会的に引き受けていくのが大学の役割であると思う。第4次産業革命に賛成されなくても、琉球大学の教員はそういうネガティブな面も含めて真摯に考え、積極的に提案していくということをむしろ働きかけることがあっても良いのではと思う。

## 報告事項

### (1) 平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果について

川本副学長から、平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果について、資料に基づき報告があった。

### (2) 国立大学法人琉球大学における予算貸付について

福治理事から、国立大学法人琉球大学における予算貸付について、資料に基づき報告があった。

### (3) 上原キャンパスの移転について

須加原理事から、上原キャンパスの移転について、資料に基づき報告があった。

### (4) 連携協定等について

学長から、9月の経営協議会以降に締結された各種の連携協定等について、資料に基づき報告があった。